

認知症カフェ広がる

本人・家族・住民・医師らおしゃべり

福山市内に開設相次ぐ

認知症の人や家族の支援につながる期待されている「認知症カフェ」が、福山市内でも広がりにつつある。10月から始めた「ガーデンカフェ」(新市町)に続き、9日に「オレンジカフェくさど」(草戸町5丁目)もスタートする。

認知症カフェは、認知症の人や家族が集い、地域の人もおしゃべりをしたり、医師や看護師ら専門職らに悩みを相談したりすること、早期発見や悩み解消などにつながる取り組み。厚生労働省がまとめた認知症に対する計画「オレンジプラン」でも普及を明記しており、全国各地で開設が広がりにつつある。

「ガーデンカフェ」は、

福山平成大学福祉健康学部の中司登志美教授が呼びかけて、10月11日に、社会福祉法人新市福祉会の「ローカルコモンズしんいち ガーデンテラス」を会場に開かれた。認知症の7人や家族、住民ら計22人が訪れ、医師や看護師、介護福祉士ら14人のスタッフと約2時間を通じて。

次回は11月22日午後1時3時。参加費200円。申し込みはジョイトピアしんいち・信高里恵さん(0847・51・2226)。

「オレンジカフェくさど」は社会福祉法人さんよう理事長で認知症介護指導者の辰川和美さんらが計画し参加を募っている。

9日は午後2時〜3時

備後

ECOと
低価格志向

●眠っているピアノ
●不要なピアノは

半。スタッフ側は看護師や介護士、作業療法士らが参加する。参加費100円。問い合わせは会場の特別養護老人ホームくさど(084・973・9911)。

中司教授は「早期の認知

症の方には病院に行きにくい人もいます。そんな人や、長年介護している家族、地域の人々が気軽に集まれる場で、さらに地域に広がっていくことが大切です」と話している。
(竹久岐史)